

神戸新百景

〈4〉

『My Life With Mt. Rokko』



白羽弥仁

六甲、なんて神戸のまちの中の、一部の地名に過ぎない筈なのに「六甲おろし」と「水」のお陰で全国的に知られている地名になっている。しかし、六甲という場所がどこなのかを特定するとなると地元の人でさえ曖昧なのではないか。うちの近所でも「六甲台」という町名があるのだが、「六甲町」とはちょっと距離が離れており、間には違う町名の町がいくつかある。六甲小学校と六甲中学も全然離れたところにある。大体、なんとなく六甲山のふもとあたりを六甲と言うのだろう。そういう意味で言えば僕は生まれも育ちも六甲、なので産湯、は帝釈天ではなく六甲の湯、という訳だ。

震災直後、六甲山は一部崖崩れを起こし、今でもその崩落を防ぐ工事が続いている。子供の頃から今に至るまで、このまちにいる限りどうしたって常に僕の視界には六甲山があった。山火事も何度か目撃した。子供の頃は亡くなった祖父に先導されて毎日のように登った。多分道が変わってさえいなければ今でも迷わず歩けるだろう。長じてからはロマンティックな舞台装置として大いに利用した。六甲山のお陰、と言ってもいいデートばかりだ。それは僕だけではないでしょう。自然とのふれあいとロマンティックの甘美を教えてくれた六甲山がある人生、というのは僕の誇りだ。だから、「怪我の治療中」の今の六甲山が早く良くなるよう、僕は毎日、北東の方角の山肌を見ることを欠かさない。

〈映画監督〉



カメラ／小林政夫

あしたの暮らし あしたの住まい

すばらしい自然と景観の海辺のまちで
ゆとりのあるおしゃれな暮らしを

■ あなたとご家族に快適な住まいをお届けします



北村 信二郎 兵庫県住宅供給公社理事長



環境に恵まれた「西宮マリナパークシティ・桜のまち」

兵庫県住宅供給公社は、震災復興事業の一貫として、西宮臨海部で官民一体となったまちづくりに取り組んできました。その名も「西宮マリナパークシティ」。ことし3月にまち開きをしました。明るい太陽、マリブルーの海、緑の六甲の山々などすばらしい自然とロケーションの中で、いま快適でおしゃれな暮らしが始まっています。その中で、当公社が担当した「桜のまち」をご紹介します。

「西宮マリナパークシティ」は、阪神西宮駅から南へ一直線の西宮浜にあります。広さは甲子園球場の8倍の30ha。ここに3560戸の住宅と幼稚園、小・中学校、福祉や医療施設、商店、スーパーマーケット、銀行などが揃い、まさに21世紀にふさわしいまちです。

「桜のまち」は西宮市の花、桜をシンボルに5棟からなるマンションを500戸建設し、分譲しています。桜を中心に四季を彩る約2万本の木々を植え、敷地の約70%を池、公園などのオープンスペースとするなど、ゆとりのある住環境に配慮しています。住戸は全戸がバリアフリー設計とし、床暖房を設置したほか、ほとんどの住戸が南または南東向きで海が展望できます。花と緑に包まれた美しい海辺のまち「桜のまち」でゆったりと暮らしてみませんか。心よりお待ちしております。

兵庫県住宅供給公社

神戸市中央区下山手通4-18-2
TEL.078-232-9522
FAX.078-232-9560



「ひょうご国際プラザ」が入る国際健康開発センタービル (IHDビル)

HIA
HYOGO INTERNATIONAL PLAZA

震災復興のシンボル施設 「ひょうご国際プラザ」オープン

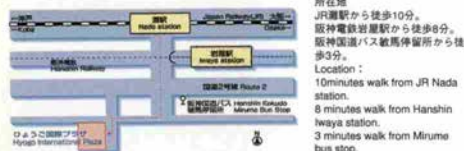


4月24日、HAT神戸にオープン

ご案内 Information

〒651-0073 神戸市中央区臨浜海岸通1丁目5番1号
国際健康開発センタービル (IHDビル) 内
1-5-1 Wakinhama-Kaigandori Chuo-ku Kobe
ひょうご国際プラザ (Hyogo International Plaza)
TEL 078-230-3060 FAX 078-230-3080

ご利用時間	Business Hours
月～金 9:00～20:00 (貴客様定休は21時まで)	Monday to Friday: 9:00AM～8:00PM (rental rooms available until 9:00PM)
土 9:00～17:00	Saturday: 9:00AM～5:00PM
日曜、祝祭日、年末年始閉館	Sunday Holiday: Closed
ホームページアドレス	http://www.hyogo-ip.or.jp



「ひょうご国際プラザ」は、国籍を超えたあらゆる人が集い、ふれあい、国際交流や国際協力について共に考え、行動を起こす拠点として、また、震災復興のシンボル施設として、神戸東部新都心の中核となる国際健康開発センタービルの中に4月24日開設されました。プラザは、図書・インターネット・ビデオ等で国内外の情報を入手できる「国際情報センター」、NGO活動のために自由に利用できる「活動支援室」、経済・観光・交通等の情報を提供して外国人の活動を支援し、兵庫でのビジネスチャンスをサポートする「外国人ビジネスセンター」、イベント・セミナー等幅広く利用できる「交流ギャラリー」、「交流ホール」、くつろぎと交流のスペース「交流サロン」等で構成され、国際交流等に関心のある日本人や兵庫県で活動する外国人を支援する施設を目指しています。皆さんの創意と意欲を生かす場としてプラザをご利用下さい。

明日の東播海岸を考える シンポジウム

主催：明日の東播海岸を考えるシンポジウム実行委員会
(建設省・兵庫県・神戸市・明石市・播磨町)

アジュール舞子 大蔵海岸

東播海岸とは、兵庫県神戸市垂水区の東端、堺川河口から明石市を経て、加古郡播磨町本荘に至る海岸線の総称です。平成8年10月、その東播海岸の今後のあり方、将来構想等をテーマに学識経験者、地域の代表の方々、関係行政機関をメンバーとする「明日の東播海岸を考える懇談会」を設立し、これまでに重ねてきた議論も紹介しながら、将来にわたって東播海岸をどのように整備・保全していくのかを、市民の皆さまとともに考える場として、このシンポジウムを開催しました。

酒井 今回のシンポジウムは、二十一世紀の地域プロジェクトを地元参加で考えていくということ、新しい市民社会づくりの先駆けになると思い、コーディネーターを引き受けました。まず、パネリストの皆さんにそれぞれの立場で意見を述べていただきたいと思っています。

鷺尾 東播海岸の沖合には良い漁場があり、そのため沖合にばかり目が向けられがちですが、魚にとつて海岸付近も非常に大切な生活の場です。タイやヒラメ、またウミガメなど海の生物が子供時代を過ごすのが海岸付近。東播の海は潮の流れが速いため海岸浸食が激しく、かつては大きな被害がありました。しかし浸食するエネルギーには、プラスの働きもあります。現在、瀬戸内海はヘドロや赤潮の問題で芳しくない環境にあるとされますが、その中で東播の海が保たれているのは、このエネルギーにより水の浄化などの効果があるから。また明石原人などの化石を発掘してくれるということもありました。従来、海岸浸食については、くい止めようという方向のみでしたが、今度は活かしながら国土、環境を守る方向性が必要でしょう。新しい海岸づくりの中で、人工的に砂を入れることも行われましたが、そこに泥や小石が混じり、海藻が生えて虫がすみ……という自然の生態系ができてくるのには何年もの時間がかかります。私たち地元住民は、そういう生物の営みを見守る目線で海岸について考えたいと思います。そのためにも、さまざまな情報発信をしてくれる生物の研究機関が地元

に欲しいですね。

服部 瀬戸内海の高浜植生というのは、一番海際にオカヒジキなどの生えるゾーン、次にコウボウムギなどの生えるゾーン、その次にハマゴウやクロマツなどの生えるゾーンがきます。ところが兵庫県の瀬戸内では、この高浜植生がほとんど残存していない状態。建設省の調査によると、東播海岸では、コウボウムギほか数種が確認されていますが、それらはいわば放っておいても生えるタイプの植物で、その程度なら高浜植生の復元は可能なのです。問題は、その先で、やはり人の手で何とかしなければ自然復元は無理。環境教育、自然教育の一環として、また景観の要素として美しい高浜植生を甦らせたいものです。高浜植生を含めた生物の生存空間ができるように、高浜植物保護センターのようなものができればいいですね。

橋爪 海岸利用の点から見ると、すでにさまざまな問題があります。例えば花火などの騒音、渋滞、ゴミの始末など。解決するためのひとつの方法として、まず海岸を交流の場にしようとする発想が重要だと考えます。対立するのではなく、地元の人々も外の人も同じようにこれらの問題に対処していくということであり、広い意味では海と人との交流も含まれます。それには、東播海岸のきちんとしたイメージづくりをして、全国にPRする必要もありますね。素晴らしい海岸のイメージを共有できてはじめて、それを守ろう、もっと良くしようということになる。実際、東播海岸は全世界にアピールで



コーディネーター

酒井哲郎さん
京都大学大学院工学
研究科教授

パネリスト

鷺尾圭司さん
林崎漁業協同組合/
企画研究室室長

パネリスト

服部 保さん
姫路工業大学自然・
環境科学研究所教授

パネリスト

橋爪紳也さん
京都精華大学創造研究所
所長

パネリスト

川崎雅史さん
京都大学大学院工学
研究科助教授

パネリスト

和田美耶子さん
明石市女性団体協議会
会長

パネリスト

板倉信一郎さん
建設省姫路工事事務
所所長

きる素晴らしい海岸となる要素をもっています。また海岸を線ではなく、街と関係づけながら面でとらえて考えることも必要でしょう。街の活性化がひいては、海岸の活性化にもつながるわけです。従来は建設省による防災第一の海岸整備でしたが、これからは住民の提案がもっと活かされ、新しい海岸利用のあり方が生まれてくるべきです。

川崎 白砂青松の海岸というのは日本人の原風景的なものであり、砂浜と磯が繰り返して現れるのが、東播海岸でも基本的な地形の特徴です。自然そのまゝを保全するのは難しいのですが、やはり景観を創造する原則が地形にあると考えられます。ですから、海岸浸食を防ぐ大きな構造物も風景の一部と考え、自然を演出することが必要。東播海岸でもさまざまな試みがなされています。また海岸利用の観点から言えば、広いだけで面白くない海岸よりも、公園や文化施設があるほうがいい。しかしその場合、東播海岸共通のアイデンティティをとらえ、統一感のある美しい景観を作り出さなければなりません。ポイントになると考えられるのが、海岸部にある海に関連した神社。海と神社、街がつながって固有な景観を生み出しています。また、市民運動として、松林をつなげていこうという運動もあります。いずれにしても、東播海岸の景観のトータルなランドデザインが必要でしょう。

和田 私は地元の主婦という立場で、参加させていただいていますが、明石海峡大橋も開通し、二十一世紀は東播海岸がいよいよクロウズアップされる時代になるだろうと感じています。建

設省の事業で白砂が復活し、夏には三十万人からの海水浴客が訪れますし、昭和六十一年以降ウミガメの産卵も確認されています。

明石市は二十一世紀に向けた都市像として、海上公園都市を提唱していますが、美しい海と海岸を未来に残したいものです。海岸整備について一例をあげれば、ゴミ処理関連では、各種団体、行政、企業が協力し清掃してありますが、追いつかずに緊急の課題となっています。ゴミは各自持ち帰るのが基本マナーなので、海岸利用者のマナー向上運動も必要ですが、同時にゴミ回収の予算措置も行政にお願いしたいですね。

板倉 これまで防災第一に最大の効果を生む工法を進めてきたのですが、今後は自然や人々の生活との関わりを考えて仕事していかなばと思っています。地域の特性を生かしながら気軽に海を楽しんでもらう施設や、ウミガメの産卵場の保全や調査、地元の子どもたちが直接海に触れたり観察できる磯浜の整備などをしておりまます。多くの方々に興味を持っていただき、もっとこうしてはどうかといった意見を私どもに寄せていただきたいと思います。

酒井 これからは住んでいる方々が中心になってすべてを進めていくんだというのを基本的なスタンスとして、文化的にも技術的にも、世界でここしかない非常に貴重な特徴をもった海岸だということを忘れずに、この海岸を考えていっていただきたいと思います。

(七月六日 ロイヤルパレスにて収録)



◆アジュール舞子 イベントスケジュール◆

7月14日(火)～8月22日(土)
フォトコンテスト

～海を感じ・海ととけあう～

協賛 富士写真フィルム(株)

■ お申し込み・お問い合わせ先
オープン記念イベント事務局

TEL (078) 261-2327

FAX (078) 261-2361

8月16日(日) 13:00～21:00(雨天中止)

一部「アジュールフェスタ」13:00～17:00

●アジュール舞子ビーチサッカー大会(10:00～17:00)

後援 神戸市サッカー協会

●アジュール舞子体験クイズラリー！(13:00～17:00)

●宝探し(13:00～16:35)

二部「夢灯す・夏の夕べ」19:00～21:00

ローソクの火で砂浜に模様を描き出し、
明石海峡大橋をバックにした幻想的な
空間を演出します。

この美しい「キャンドルアート」は、
どなたでも参加できます。

写真はイメージです。



●JR舞子駅・山陽舞子公園駅より徒歩約7分

●山陽霞ヶ丘駅より徒歩約5分

電車・バスなどの公共交通機関をご利用ください。



AZUR MAIKO

アジュール舞子

由緒ある舞子の浜に創り出す
白砂青松の快適空間

「アジュール舞子海水浴場」が オープン

安藤 嘉茂
〈神戸市建設局長〉



アジュール舞子海水浴場より明石海峡大橋を望む

舞子の浜は風光明媚な景勝地として、また海水浴場として、古くから市民に親しまれてきました。

その舞子海岸を昔のような白砂青松の海岸に復元し、環境・景観・レクリエーション・防災の4つの基本方針を軸に、明石海峡の美しい風景の中で人々が気軽に海と親しみ、集い、憩える海洋性レクリエーションの場として整備しているのがアジュール舞子です。

アジュールはフランス語で青。舞子海岸が南フランスの紺碧海岸（コートダジュール）のように美しい海岸に、との期待をこめて名付けられました。

そのアジュール舞子に、この夏、海水浴場がオープンしました。

碧い海と真っ白な砂浜、明石海峡大橋の雄大な眺めと海峡を通り抜ける船、すぐそこに淡路島が望める絶好のロケーションに恵まれたビーチには、売店、シャワー、更衣室などの施設を完備しており、8月16日には記念イベントの開催も予定しています。

また、西側利便施設には、この夏にレストラン、温浴施設を備えたブチリゾートホテルがオープン、さらに来年の春には、残りの東半分の整備も完了し、全体が完成する予定です。

今後ともアジュール舞子がたくさんの方に利用され市民の「ふれあいの海辺」として愛されることを期待しています。

■お問い合わせ先

財団法人 神戸市公園緑化協会
アジュール舞子管理事務所

神戸市垂水区海岸通

☎ 078・706・2011



ワールドカップフランス大会に沸いたフランス

小泉由紀子 〈ニース在住〉

とうとうフランスが優勝に輝いた。イタリア戦から、フランス中がそれはもう大変な騒ぎだったから、優勝となると考えられない状態が続いたニースだった。

順々決勝のイタリア戦では、多くの店の入口がトリコロールにデコレーションされ、カフェには大型テレビが置かれ、テラスは人だかり。イタリア人の多いニースでは、顔を緑・白・赤に塗ったイタリア人と、青・白・赤に塗ったフランス人の陽気な戦いが展開される。なかなか得点できなかった試合、PK戦の最終でイタリアがはずし、フランスの勝ちが決まった。がっくりと肩を落としたイタリア人は、無言でカフェを立ち去る。なかにはフランス人に混ざり喜び人もいたが…。勝ったからにはもう叫ぶ、歌う、踊る。旗を片手にハコ乗りの車が街を行く。「国民のほとんどが試合の様子をテレビで見る＝テレビのない店には客は来ない＝店は例外的に休業」という図式になっていた。

クロアチアに勝ち、決勝進出が決まったときは、みんながかなり興奮状態で明け方まで騒ぎは続いた。ブラジルとの決勝戦の日には、ニ

スの中心「プラスマセナ」は、すべての道路が通行止めになって、オーロラビジョンが設置され、考えられない数の人間が野外观戦に望む。これまで手に入れることのできなかった優勝が目前に迫る。6時から試合開始の9時まで、ビール片手に「何点差でどちらが勝つか」「この旗はどこで幾らで買った」とか。顔や髪を3色に染める人などでごった返す。

スタジアムでは300人のモデルによるイヴ・サンローランのファッションショーが始まった。ショーのクライマックスでは、YSLを青・白・赤の人文字で飾った様子が素晴らしく、多くのモデルが感動して涙を流していた。試合開始、ハラハラの前半を終え、試合終了間際にチームの男前、エマニュエル・ブチが決勝ゴールを決め、フランスはワールドカップを手に入れた。

この夜、フランスは眠らなかった。2日後は革命記念日のパレード、エッフェル塔前ではジョン・ミッシェルジャーと小室哲哉によるテクノライブ、とにかく忙しい日々が続いたフランスだったが、スポーツのスポットは「トゥール・ド・フランス」に移っていった。



はないかだ幻想

青木 はるみ 絵／石阪 春生

夏には透けそうなものを身にまとうだけで
ねむっています

人は誰でも

たましいを抱いているので

軽やかというわけでもありません

恋しいひとをおむかえし

また見知らぬところへお送りし

ようやく私もたましいに

灯をともしやすしさを知りました

ほのかに川面を照らす灯籠の行方を

なぜか子供たちさえ

気にはしてはいませんから

さあよく冷えた水瓜を

食べましょうよ

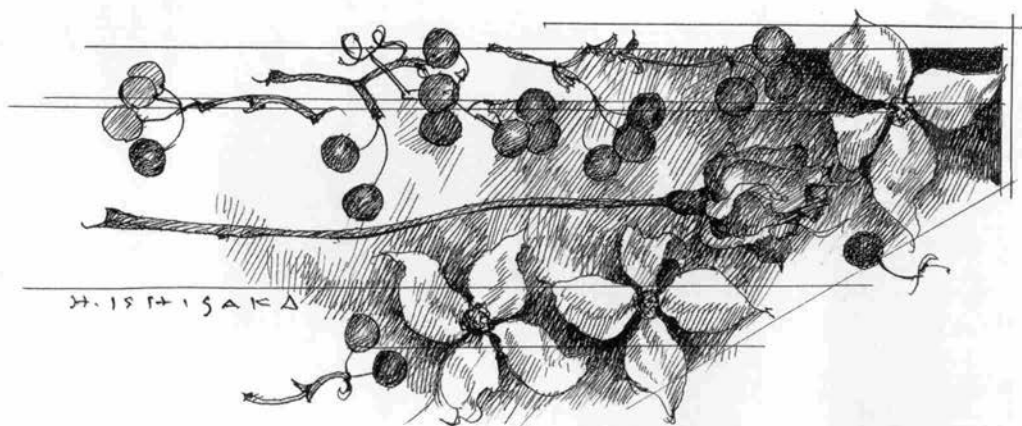
いくつに切り分ければいいのかしらね

かぞえきれない灯籠が

あかくにじみながら寄りそっては

離れていく夕べ

いつのまにかねむっています



2015.12.15 A to D

■私の意見

生涯学習を身近なものに！

“まなびピア兵庫’98”に期待する。

三辺光夫

（教育学博士、学校法人芦屋芸術学院理事長）



日本は明治以来、近代産業社会の成立過程でなくらく学歴社会を形成してきた。この古い教育のあり方は戦後の民主化・平等化、そして効率化によって高度産業社会を支えてきた。その間、受験競争と教育現場の荒廃をもたらした。しかし、このような問題は全て学校教育がその中心的役割を果たしてきたといえる。

昨今の高齢化・少子化時代に加え、技術や情報の高度化のなかで、人間一生のライフ・ステージも変化し、家庭・学校・社会が発達と成熟そして退化に応じた、多様でより個性的な教育の機能と作用をリンクした生涯教育制度が必要とされ、学校は開放されつつある。私どもの芦屋芸術情報専門学校（六甲アイランド）でも、四年制大学や短大を卒業したあと、また一度は会社づとめをした社会人の入学が年々増え、地域の主婦がパソコン講座に積極的に参加している。毎年夏休み中の「まんがスクール」も定着してきた。大学と専門学校それに企業が加わって創設したインターメディアム研究所（IMI）の「大学院講座」には、サラリーマンや退職者などのリカレント教育機関としての傾向もみられる。今年からは大阪市の協力もあつてワールドトレードセンター（WTC）に移り、まさに産・官・学による生涯学習機能としての役割を果たしている。

今後は、文部省を主管とする文教主導型ではなく、厚生省、労働省、通産省なども加わり、経済団体や地方公共団体も参画した、時代のニーズや地域に見合った生涯学習モデルを推進すべきだろう。

このたびの「まなびピア兵庫’98」を機会に、イベントとして終らすことなく、地元兵庫県や神戸市などで未来社会へラジカルとなりリカレントモデルの展開を期待する次第である。

STEP GLOBALLY STEP NATURALLY

地球を歩く

自然に歩く

STEP COMFORTABLY

快適に歩く



ヘルスシューズであなたの足に健康を

Japan's Premier Health-Shoe Specialist

高級健康靴と関連資材輸入・機材輸入



〒650-0012 神戸市中央区北長狭通り5-6-6
TEL:078-382-2101 FAX:078-382-2150
営業時間:10:30a.m.~6:30p.m.年中無休

「毎日の生活の中で、私達の足には大きな負担がかり、足の状態は、体全体の健康に大きな影響を与えます。アリスの健康靴は、最新の整形外科学の知識に基づいて作られていますので、足に悩みをお持ちの方にはもちろんのこと、健康な足を健康に維持しようと思われる方にも、自信をもってお勧めできます。ドイツから招聘した整形外科靴マイスターが常駐し、お客さまの靴の調整・修理・足の健康管理のお手伝いをさせて頂くと共に、アリスでは、随時無料で足の相談をお受けしています。さらに、月に一度「相談日」を設け、整形外科医・技術専門家とマイスターが、お客さまの足の悩みに専門的に応える体制をとっています。是非一度お気軽にご来店ください。」



株式会社アリス 代表取締役
アリス・クリスチャンス

JR元町駅西へ歩いて5分
花隈駐車場入り口向い

ムラマツ宴会の歴史(二)

村松 友視 〈作家〉

カット／灘本唯人
題字／筆者

赤瀬川原平さんは、私が知ったときにはすでに天才的仙人だったし、仙人的天才でもあった。ハイレッドセクター……すなわち、高松次郎氏の高（ハイ）、赤瀬川原平さんの赤（レッド）、中西夏之氏の中（セクター）をとって命名した前衛即興美術集団みたいな仲間で、いわゆる「ハブニング」つまりは「人騒がせ」のさががけとなつて行動を次々に打ち出したのも、櫻画報社なる集団をつくつてきわめて爆動的な作品を発表したのも、贗千円札を美術作品としてつくつてこれまた「人騒がせ」をしたばかりでなく「犯罪」の領域まで遊んでしまつたのも、前衛舞踊やアングラ芝居の装置を担当して人心を迷わしたのも、すでに私が直接に顔を合わせる前の、天才の系譜というやつでありました。そんなあげくのある日、状況劇場の宴会において、レコード大賞を真似たみたいな冗談で、今年度の優秀役者を選ぶというようなゲームをやり、そのときの司会兼賞品を渡す役みたいなものを、赤瀬川原平さんと私がやることになった。それがまあ、ゲンペーさんと私との出会いということになるのだろう。

そんなこともあったので、クマさんはゲンペーさんを我が家と呼んでも大丈夫と踏んだらしく、

もちろん大丈夫だったのだが、そこからゲンペーさんの強烈な個性が、刻一刻と私の頭に灼きついていった。何しろ、することなすこと言うことすべてが、普通であつて普通でないという、まことに比類なき人物であるということが判明したのだった。

ともかく、そんなわけでクマさん、ゲンペーさん、私という三人の宴会がしばらくつづいた。宴会のありようは、とりあえず言葉遣いの天才であるクマさんは、森羅万象を喋りまくり、それにゲンペーさんと私が相槌を打つというかたちだった。たまに、ボソリ、ボソリという言葉というか呟やきというかを発するゲンペーさんに、文芸雑誌の編集者であつた私の職業意識が刺激された。この人に小説を書かせたい……その気持が日ましにふくらんでゆくのを、私は抑えることができなかった。

そしてついに、中央公論社の文芸誌「海」の編集者たる私は、決心をしてゲンペーさんに百枚の小説を依頼した。それまでもゲンペーさんの書くものは、小説といえは小説といった趣きもあつたのだが、文芸雑誌に小説を依頼されたのは、初めてのことだったのでなかろうか。



タイトルは「レンズの下の子の聖徳太子」、総枚数は百三十枚となった。これを読んで、私はすごい作品だと思った。題材は、贗千円札をつくる作業ということになるのだが、そういう大それた、世界のルールを凌辱するような話と、淡々として奇妙な滑稽感がたまたま文章のコントラストが、得も言われぬ異臭をかもし出していた。つまり、作品は私の目論み通りに書かれたのだった。

この作品が掲載された号が発売され、私は浮きうきしながら新聞の文芸時評を待っていた。だが、これがまったくの無反応、いや無視といつていいありさまだった。その頃から、私は文壇的な文芸時評子などというものは信用していなかったが、なまじ浮きうきしてしまつた自分がいじましかった。

「そうだよゲンペーさん、世の中バカばかりなんだから……」

そうやってなぐさめても、ゲンペーさんは浮かぬ顔……やっぱ作品が駄目だったんじゃないかなという表情をしていたのだから、やはりエライ！ では私がバカだったかといえばそうでもなく、この作品を読んだ編集者がのちに依頼した「肌ざわり」が、何と中央公論新人賞を受賞してしまつたのだ。

そして、ゲンペーさんはトントン拍子に芥川賞作家となり、小説を書くときは尾辻克彦、その他の活動は赤瀬川原平という、二つ名の天才となつたのでありました。

（むらまつ・ともみ）一九四〇年東京生まれ。慶応義塾大学文学部卒。六三年中央公論社に入社。「小説中央公論」「婦人公論」「海」編集部員を経て、八一年退社。八二年「時代屋の女房」で直木賞受賞。主な著書は「私、プロレスの味方です」「アブサン物語」「トニー谷、ざんす」「鎌倉のおばさん」など。



編集長インタビュー

ひとりひとりが元氣アップ！

— 生きる力の復興のために —

清原 桂子

〈兵庫県生活復興局長〉

未曾有の大地震から3年半が過ぎ、震災復興のポイントも震災直後とは変わってきました。兵庫県総括部生活復興局長の清原桂子さんに、今求められている復興支援のあり方などについて、お話をうかがいました。

— 生活復興局は震災復興事業の中で、どのような役割を果たす機関なのでしょう。

清原 県総括部の中には住まい復興局と生活復興局があり、住まい復興局は住宅建設その他のハードの部分を担っています。対して生活復興局では貸付金などを含めソフトの部分の担い、中でも生きがいづくり、社会の中の居場所づくりなど人間関係をケアすることに力を入れています。



清原 桂子（きよはら けいこ）

関西大学文学部講師を経て、1992年（平成4年）10月、兵庫県立女性センター初代所長。1996年（平成8年）4月から県労働部次長。同年7月から、県生活復興局長（労働部次長兼務）。夫と大学生・高校生の息子の4人暮らし。姫路市在住。

震災後、歳月が経つにつれて、本来の意味で自立を支援するというのはどういうことなのか、大きく問われるようになってきました。支援する側・される側という、いわば縦の関係において「自立してください」と言われてもなかなか難しいものがあつたんです。そこで生活復興局では、支援される側の人もいろいろなかたちで支援する側にまわれる、そんな横の関係づくりのお手伝いをしています。

— 横の関係づくりのために、具体的にはどのような事業が行われているのでしょうか。

清原 まず「高齢者語り部昔の遊び伝承事業」があります。これは高齢者の方々に、地域の子供たちに昔の遊びや暮

らしぶりを伝えてもらうものです。お手玉、おはじき、風あげなど、高齢者のみなさんは実に素晴らしい技と知識をもっていらつしやるんです。ご協力いただいた高齢者の方には、少しでも謝金をお支払いしています。働いているんだ、社会の担い手になってるんだという生きがいをいただければという意味で。

技能・文化の伝承ということでは、労働部がやっている「兵庫の匠キャラバン隊」というものもあります。大工仕事や洋菓子づくりなど、各分野で活躍していらつしやる職人の方々の技を、中学生のみなさんに知ってもらう企画です。神戸をはじめ兵庫県にはさまざまな優れた技能を持つ方がいらつしやうて、文化も産業も支えてくださっています。本当の意味での震災復興を進めようという今だからこそ、若い人には地元技能者のみなさんの一流の技術に接してもらいたいです。

さらに「いきいき仕事塾」というものもあります。これは全12回の講座で学んでいただくもの。内容は野菜・花づくり、介護・介助の技術、昔の遊びの伝承事業関連では、子供たちにどう教えたらいかなど、バラエティに富んだコースから選択するようになっていきます。変わったところでは、ひとり住まいのための暮らしの知恵コースというのが人気です。被災地にはひとり暮らしの中年男性が意外と多くて、高齢者施策の対象からは外れてしまうその方々に、暮らしの技能を身につけていただきたい。

ですから大根1本買ったかどうかやうて使い切るかとか、そういう具体的な技術を知っていただく内容です。なお、仮設住宅や災害復興住宅の方々などにとっては交通費も大きな負担になってしまうので、1回2000円お支払っています。

「いきいき仕事塾」は大変な人気で現在第5期を開講中。すでに修了生が2400人ほど出ているんですが、この方々に今度は「いきいきネットワーク」というかたちで、支援する側にまわっていただかせんかとお願ひしました。具体的には「自分も参加したけど案外面白かったで」と、各戸を訪問して呼びかけていただくわけです。昔大工さんだった方からうかがったんですけど、訪問先で、ち

よつと踏み台か何かをつくってあげたらすごく喜ばれたと。「わしなんかありがたいと言うってもらってなあ」と、大変感動していらつしやうしました。どんな人にも何かしらできることがあるということを知っていただいて、社会の中で役に立てるようなつながり・ルーツをつくっていくのが、生活復興局の大きな仕事なんです。

今年「元氣アップかれんだあ」という面白いのを作ったんです。シールを貼ったり、いろいろな機能を持たせたものなんですけれど、まずは何でもいいから予定をつくってカレンダーに書いて、元氣を取り戻してほしいというのが大きな狙い。予定がある、やることがあると思うだけで生活にハリがでますよね。生きがいづくり、することづくり、人間関係づくり、居場所づくり、そういう考えのもとに、生活復興局の事業すべてを進めているわけです。

これまで公益的なことは行政のやること……というイメージがありました。本当は市民が担うんだというのが震災後はつきり出てきました。被災地ではみんなのために何かするのが当たり前でしたよね。誰もができることで社会に参画する、それをこれからの社会につなげたいんです。21世紀は行政・企業・市民の三者が対等な立場で社会をつくりあげるようになるでしょうけれど、被災地にはそれを先取りする使命があると思います。震災以降の蓄積を未来に、全国につないでいかなければね。



生きがいづくりの一つ「元氣アップかれんだあ」